

インフォメーション・コーナー

会 告

○2026 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	74
○農業農村工学サマーセミナー 2025 参加者募集！（第 2 報） 申込締切 8 月 8 日	75
○農業農村工学会 若手交流の会 in 宇都宮 参加者募集！ 申込締切 8 月 22 日	75
○2025 年度 修士課程 2 年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています（第 2 期）	
応募締切 9 月 30 日	76
○FAX による図書注文を廃止しました	77
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊	77
○お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付	78
○CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から）—「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—	79
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	79
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	79
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	79
○改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	81
○2026 年の学会誌表紙写真の募集 応募締切 9 月 30 日	82
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024 年 7 月から 2026 年 6 月までの編集体制と編集事務局	83
○令和 7 年度東北支部総会・第 65 回東北支部研究発表会ならびに第 55 回東北支部研修会・ 第 45 回地方講習会の開催（第 1 報） 11 月 6, 7 日開催	84
○第 76 回関東支部大会（講演会・講習会等）の開催（第 2 報） 参加・講演申込締切 10 月 10 日	84
○令和 7 年度九州沖縄支部大会（第 106 回シンポジウム・講習会・講演会・現地見学会）の開催（第 2 報） 参加・講演申込締切 9 月 19 日	85
○第 64 回土壌物理研究部会研究集会の開催 10 月 24 日開催	87
○2025 年度計算力学技術者（CAE 技術者）上級アナリスト認定試験の案内 申込締切 9 月 11 日	87
○第 17 回「梶木賞」論文の募集 応募締切 10 月 31 日	87
○第 28 回（2026 年）日本水大賞の募集 応募締切 10 月 31 日	88
農業農村工学会論文集 内容紹介	89
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」誌 掲載論文紹介	90
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覽	93
学会記事	95

第 93 巻第 9 号予定

展望：農村の維持から発展に向けて：桐 博英

小特集：農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献

報文：輸出重点品目・錦鯉の振興に不可欠な豪雪中山間地の振興：坂田寧代ほか

報文：地域資源を生かした農村ツーリズムの開発と実践的展開：三宅康介ほか

報文：ICT による次代への里山情報と農村の多面的機能の共有：岩崎 史

技術レポート

北海道支部：人材育成・確保に向けた酪農学園大学との連携協定：片桐俊英ほか

東北支部：福島県小屋木地区における大規模な水田の畑地化整備：蛭田美紅ほか

京都支部：河北潟放水路内における低強度軟弱地盤改良技術の開発：安井健一ほか

中国四国支部：頭首工（ゴム引布製起伏堰）の工事事例：宮本大聖

九州沖縄支部：担い手不在集落への地元企業による農業参入：水城佳将

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2025年9月 2～5日	大会運営委員会	2025年度(第74回) 農業農村工学会大会講演会 ㊦	—	宇都宮市	92巻12号 93巻1, 2, 3, 4, 5, 6号
2025年9月 4～6日	農業農村工学サマーセミナー 2025 実行委員会	農業農村工学サマーセミナー 2025	—	宇都宮市	93巻7, 8号
2025年9月5日	農村生態工学研究部会	2025年度現地研修会	—	宇都宮市	93巻7号
2025年10月 23, 24日	中国四国支部	第80回支部講演会 第49回地方講習会 ㊦	—	松山市	93巻7号
2025年10月 24日	土壌物理研究部会	第64回研究集会	—	津市	93巻8号
2025年10月 30, 31日	九州沖縄支部	令和7年度(第106回)支部大会 ㊦	—	熊本市	93巻4, 8号
2025年11月 6, 7日	東北支部	令和7年度総会・第65回研究発表会・第55回研修会・第45回地方講習会 ㊦	—	秋田市	93巻8号
2025年11月 10日	関東支部	第76回支部大会 ㊦	—	千葉市	93巻6, 8号
2025年11月 18日	京都支部	第82回研究発表会 ㊦	—	新潟市	93巻4, 6号

2026年度農業農村工学会賞候補の推薦

2026年度の農業農村工学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、締切は、2025年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。は学会ホームページをご参照ください。

2026年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2020年10月から2025年9月までに発表されたものとする。ただし、その5か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022年10月から2025年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022年10月から2025年9月までに発表されたものとする。ただし、その3か年以内に発表したものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2024年10月から2025年9月までに発表されたものとする。	2024年10月から2025年9月までに発表されたものとする。	2023年10月から2025年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2025年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2015年10月から2025年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2025年9月までにを行った活動とする。	2023年10月から2025年9月までにを行った活動とする。	2020年10月から2025年9月までにを行った活動とする。	2020年10月から2025年9月までにを行った活動とする。	2020年10月から2025年9月までにを行った活動とする。	2023年10月から2025年9月までに制作したものとする。	

賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。						2025年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。	
選考の方法	学会賞選考委員会において行う						
賞の決定	理事会において行う						
表彰	2026年度(第75回)農業農村工学会大会講演会において会長が授与する						
推薦締切	2025年10月末日						
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛						

農業農村工学サマーセミナー 2025 参加者募集！(第2報)

農業農村工学サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー 2025 の開催を企画しています。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論をしてみたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

- 主 催** 農業農村工学サマーセミナー 2025 実行委員会
浦畑 夢 (三重大学大学院生物資源学研究科)
浅野珠里 (東京大学大学院農学生命科学研究科)
大塚健太郎 (岐阜大学大学院連合農学研究科)
田崎小春 (鹿児島大学大学院連合農学研究科)
近藤航樹 (東京農工大学大学院連合農学研究科)
藤田直己 (大阪公立大学大学院農学研究科)
中山美沙希 (宇都宮大学大学院地域創生科学研究科)

- 開催方式** 現地のみ
(※本年度はオンライン開催を行いません)

- 対 象** 学部学生, 大学院生, 若手社会人, 若手研究者
- 日 時** 2025年9月4日(木)学会終了後(夕方頃)～6日(土)正午頃終了予定
- 参加費** 未定
- 企画内容**

以下のテーマでのディスカッションを予定しております。

【メインテーマ】

食べて、歩いて、ディスカッションー宇都宮で考える地域資源と農村のこれからー

【サブテーマ】

- ・「栃木の「農」を包む！地域資源と農業農村工学の視点から考えるご当地餃子」
- ・「この夏いちばんクールな体験ーひんやり大谷石めぐりー」

- 参加申込期間** 7月18日(金)～8月8日(金)
- 問合せ**

E-mail: n.n.summer.seminar@gmail.com

URL: <https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar>

n-n-summer-seminar



農業農村工学会 若手交流の会 in 宇都宮 参加者募集！

若手交流の会(若手会)は、農業農村工学を学ぶ学生、若手研究者、若手社会人の交流を目的とした学生主催の懇親会です。普段なかなか会わない他大学の学生、社会人と話したり、食事をして交流しませんか？多くの皆様のご参加をお待ちしております。参加申込みは、以下の内容をご確認ください。

- 主 催** 竹内真愛, 江連亮侑, 奥野勇佑 (宇都宮大学大学院)
- 日 時** 2025年9月3日(水)19:00～ 現地集合
- 対 象**



学部学生，大学院生，若手社会人，若手研究者

※学会のネームプレートをご持参ください。

4. 開催地 ライオンズヘッド 駅東口店
(宇都宮駅より徒歩 5 分)

5. 参加費 3,500 円 (仮)

6. 参加申込み方法

参加申し込みは以下の①～④の内容を明記の上，右記のメールアドレスへ送信いただくか，右記の二次元コードか

ら専用のフォームに必要事項を記入して送信してください。

- ①氏名 (漢字・フリガナ) ②所属 (大学・学部・学科・学年) ③連絡先 (E-mail)
④当日の連絡先 (電話番号)



7. 申込み締切 2025 年 8 月 22 日 (金)

8. 問合せ先

担当：宇都宮大学大学院 江連亮佑

E-mail: nn.wakatekai2025.utsunomiya@gmail.com

2025 年度 修士課程 2 年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています (第 2 期)

農業農村工学会では，2025 年度末 (2026 年 3 月) 支給開始 [2025 年度修士課程 2 年] 学生などを対象に，「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って，ふるってご応募ください。応募締切りは，2025 年 9 月 30 日 (火) 17:00 までです。

募集要領

1. 趣 旨

農業農村工学会 (以下，「学会」という) は，「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り，学術・技術の振興と社会の発展に寄与する」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な方針として，土地改良長期計画 (2021 年 3 月 23 日閣議決定) があります。それを技術面から支えるのが「農業農村整備に関する技術開発計画 (2021 年 11 月 公表，<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>)」であり，そこに示された「あるべき農業・農村の姿」の実現に資する重要課題に速やかに取り組むことが求められています。

一方で，大学改革の推進や少子化の影響により，これらの課題に取り組む若手研究者が不足し，人材の確保と育成が学会の喫緊の課題となっています。

そのため，博士後期課程に進学し，研究に取り組もうとしている学生などの研究活動を支援するため，学会では，(一財)日本水士総合研究所 (以下，「水士総研」という) (<http://www.jiid.or.jp>) の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して，「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」(以下，「支援事業」という) を創設し，博士後期課程学生への研究課題に対する支援を行います。これにより，農業農村整備技術の向上を図るとともに，関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者，募集人員および取り組む研究課題

【2025 年度末 (2026 年 3 月) 支給開始対象者】

2025 年度修士課程 2 年 (博士前期課程 2 年) 在学の学生もしくは，その既修了者で 2026 年度に博士後期課程 (一般) [社会人コース等を除く] に入学見込みの 40 歳未満 (2026 年度末

時点) の本学会の学生会員または正会員を対象とします。なお，募集時点で学会の会員でない申請者については，採用後に学生会員に入会することを要件とします。

今回 (2025 年度 第 2 期) 募集する研究課題数は，4 課題以内です。なお，現在博士後期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は，支援事業の対象としません。また，日本学術振興会の特別研究員制度との併願は可能です。ただし，重複受給はできません。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし，支援事業に研究課題が採用された場合に，現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを，必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は，2021 年 3 月 23 日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら，気軽に事務局にお問い合わせください。

- (1) 土地改良長期計画の策定について：農林水産省 (<https://www.maff.go.jp>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画 (2021/11/26 公表)
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後，研究課題に取り組む場合，研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供，学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては，学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です (学会ホームページの博士人材のキャリアパス <https://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照)。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は，1 研究課題当たり年間 100 万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか，研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は，博士後期課程の 3 年間とします。なお，途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場

合および日本学術振興会の特別研究員制度を利用する場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。その場合、すでに支出した支援金については返還を求めることはしません。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に1年目は2006年3月末、2年目以降は4月中旬に振り込みます。

6. 選考方法

(1) 書類審査

申請に必要な書類は次の3種類です。

- ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書(様式1, 顔写真添付)
- ②指導教員(応募時点)の推薦書(様式2)
- ③これまでの業績リスト(様式3)

(2) 面接審査

上記(1)書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式(様式4, A4, 2ページ、最終年度は4ページ)に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年、水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、また、「大学生の農業農村体験研修会」における協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の募集期間および選考時期

募集期間 2025年8月1日(金) 9:00

～9月30日(火) 17:00(厳守)

面接 2025年12月上旬

内定 2025年12月末

9. 博士課程(後期)修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/career-path/>)より、申請様式1～3(Wordファイル)をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル(Wordファイル)にて「8. 研究課題の募集期間および選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください(郵送は受付しません)。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをつけてください。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

(※申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行以外には使用しません。学会ホームページ：<https://www.jsidre.or.jp> 参照)

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

(公社)農業農村工学会 博士課程調査研究活動支援事業事務局
中 達雄, 中村充朗, 海老原茂樹

TEL：03-3436-3418

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

FAXによる図書注文を廃止しました

農業農村工学会事務局では業務効率化の一環として、2025年2月末をもってFAXによる図書注文を廃止いたしました。図書のご購入はE-mailにてご注文いただきますようお願いいたします。

たします。

注文方法の詳細は学会ホームページ(<https://www.jsidre.or.jp/howtobuy/>)をご参照願います。

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」の発刊

令和6年3月に制定された、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農道」、設計「頭首工」、設計「農道」(農林水産省農村振興局編集)を令和6年10月に発刊いたしました。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画

「農道」基準、基準の運用、基準及び運用の解説、技術書

編 集：農林水産省農村振興局

価 格：1,760円(税込)、送料：1冊200円(最大600円)

規 格：A4判 173ページ

発行日：令和6年10月10日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「頭首工」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：4,510円（税込），送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 728ページ

発行日：令和6年10月7日

書籍名：土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計
「農道」基準，基準の運用，基準及び運用の解説，
技術書

編集：農林水産省農村振興局

価格：2,970円（税込），送料：1冊200円（最大600円）

規格：A4判 850ページ

発行日：令和6年10月7日

2. 申込み方法

I. 個人，法人の場合（賛助会員を除く）

- ① 郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名，冊

数，送付先，担当者名，連絡先をご記入ください。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ② 現金書留：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先
を書いた注文書をご同封ください。

- ③ 代金引換：書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先
を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mail
でお送りください。別途，送料の実費と代引手数料が必要
です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名，冊数，送付先，担当者名，連絡先を書いた注文書
をE-mailでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418

E-mail：suido@jsidre.or.jp

お願い!! 持続可能な農業農村工学のための学術基金へのご寄付

社会的状況を踏まえ学会では2025年度の学生年会費を免除
しています。また，大学改革の第二幕を迎えている現在，若手
の研究者のみならず，教授を含めた大学教員の研究環境は悪化
の一途を辿っており，研究費の削減から人材の育成も困難に
なっています。そのため，産官学の連携協力の強化を進めてい
るところですが，その一環として，学会にある学術基金の拡充
が喫緊の課題となっています。

2024年5月には，持続可能な農業農村工学教育のため「技
術者育成のための調査・研究費」を学術基金から公募により必
要な大学に支援する学術基金制度の拡充（⑦）を行いました。

使用目的を明確化していますので，ほかに使用することはな
く，税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・
育成のため，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，衷
心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは，以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）

（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・気候変動，国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工
学の体系化を推進
② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・
研究の推進
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化
など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①，②以外分野および学際的分野に関する調査・研究
の推進

・上記①，②以外，たとえばICTなど新たに取り組んで
ほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

- ⑦ 技術者育成のための調査・研究の推進

詳しくは学会ホームページ（https://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/）をご覧ください。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制
優遇措置（一般損金算入限度額＋特別損金算入限度額）が受け
られます。また個人が寄付する場合は，所得税等の寄付金控除
が受けられます。

CPD 認定基準の一部改正（2024 年度から） —「その他の自己学習（x）」の上限値等の見直し—

近年、品確法や建設業法の下で CPD が評価され、また日本技術士会では「技術士（CPD 認定）」の運用が始まるなど、CPD の活用が進んでいます。その一方で、コロナ禍の行動制限によって研修の形態が「集合対面型」より、インターネットを介した「自己学習型」が増加し、参加証明が得難い研鑽機会も増大しています。

農業農村工学会技術者継続教育機構では、このような自己学

習型の研修実績を正當に評価するため、2024 年 4 月より、業務運営細則に定める「別表 2 教育形態区分表」を一部改正し、自己学習【x】の分類の記号を【x1】と【x2】に区分するとともに、年間上限値を他の主要な CPD 運営体と同等の合計 30 cpd（現在は 20 cpd）となりました。

なお、自己学習型の記録申請には、これまでどおり証拠書類の提出は不要です。

【別表 2】教育形態区分表の該当部分（下線部分を改正）

（改正後）

形態	分類Ⅰ	分類Ⅱ	記号	cpd 単位	上限値	証拠提出
⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x1	0.5 H	10	—
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等	x2	0.5 H	<u>20</u>	—

（改正前）

⑤自己学習型	「水土の知」による自己学習	「水土の知」の購読	x	0.5 H	10	—
	その他の自己学習	農業農村工学に関連する領域の図書・雑誌の読習、DVD の視聴、e-learning の受講、語学習得、展示会での情報収集等		0.5 H	<u>10</u>	—

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいようお願いいたします。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 8 号掲載の問題は 9 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・

編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された

方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第93巻・第94巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第93巻第9号	農村の振興や農業の有する多面的機能維持への貢献（仮）	終了
10号	農業農村工学における再生可能エネルギー利用（仮）	終了
11号	農業農村整備における情報化施工およびBIM/CIMの現状とこれから（仮）	終了
12号	近年の豪雨による農業用ため池等被災に関連した調査・対策・研究（仮）	終了
第94巻第1号	アフリカにおける開発協力の活動事例と未来への展開（仮）	終了
2号	農業水利施設の管理における情報通信技術の最前線（仮）	8月10日
3号	農地・農業水利施設を活用した「流域治水」最前線（仮）	9月10日
4号	農業農村工学分野におけるこれからの気候変動対策技術と貢献（仮）	10月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

学会誌第94巻第1号テーマ「アフリカにおける開発協力の活動事例と未来への展開」（仮）

2025年8月に横浜で第9回アフリカ開発会議（TICAD 9）が開催される予定です。前回のTICAD 8では、改めて日本とアフリカの関係強化が表明されました。アフリカの貧困は地球規模の課題であるとともに、アフリカ市場は民間企業の商機として日本の国益とも合致することから、この関係強化の傾向は今後も長く続くと考えられます。このうち、農業分野の支援では特に、生産現場の実態を踏まえて長期的に継続することが肝要です。サブサハラ・アフリカのコメ生産量の増加を目標とする「アフリカ稲作振興のための共同体」（CARD）においても、日本の稲作の知識、経験、技術力をもとにした支援活動が取り組まれています。

CARDは2008年時点の年間1,400万tから2018年には2,800万t以上へと、「サブサハラ地域でコメの生産量を10年

間で倍増させる」目標を達成させました。この成功を受けて2019年にはCARDフェーズ2を立ち上げ、2030年を目標年として5,600万tへと、さらにコメ生産量を倍増させる次なる目標を掲げています。この目標を達成するに当たって、CARDは倍増に至る道筋を重視しており、灌漑や低湿地開発をコメの生産安定化に向けた取組みに挙げ、住民参加型の小規模灌漑開発を具体的な活動として例示しています。このようにCARDにおける農業農村工学が果たす役割は大きいと言えます。

今後も成長を続けるサブサハラ・アフリカへの農業支援を加速させるため、将来展望を見据えた現場からの活動事例を広く公募します。今後の活動展開につながるような経験に基づく提言を含んだ失敗例も貴重な成果として大歓迎します。

学会誌第94巻第2号テーマ「農業水利施設の管理における情報通信技術の最前線」（仮）

農業水利施設の管理に重要な役割を果たしている水管理制御施設は、これまでは中央管理所に情報を集約し監視制御を行うオンプレミス方式が一般的でした。しかし、耐用年数が短いこと、長期利用するとメーカー保証の対象外となること、OSのアップデートに伴う監視制御プログラムの改造が必要になる等、維持管理に多くの費用を要することが施設管理者の大きな負担となっています。このような中、最近ではFA（Factory Automation）パソコンの代わりにPLC（Programmable Logic Controller）と呼ばれる安価な機器を採用する事例、ク

ラウド方式と呼ばれる従来の中央の機能をメーカーのクラウドサーバーに集約する事例等、維持管理負担の軽減に資するシステムが実用化されつつあります。また、クラウド方式は令和6年10月に改訂された水管理制御方式技術指針にも記載されており、今後の水管理制御施設の一翼を担っていくことが期待されます。

このような新しい技術はメリットばかりではなく、データをメーカーに預けるため、セキュリティ上の不安やサービス終了の危険性があることや、サーバーとの通信にタイムラグが発生

する可能性があり、ダムの緊急放流などの重要な操作への適用が難しい等の問題もあります。しかし、日進月歩で技術開発が進められていること、経験豊富な管理の担い手が減少していることを踏まえれば、このような技術が農業水利施設の管理での採用が増えていくことが考えられます。

そのためには、農業農村工学と情報通信分野の研究者・技術

者が連携し、農業側のニーズと情報通信側のシーズを融合した新たな管理の方策を見出していく必要があると考えます。そこで、本小特集では、農業水利施設の管理における情報通信技術について最新の研究・技術の紹介や、それを現場で実装した事例紹介等に関する報文を募集します。

学会誌第 94 巻第 3 号テーマ「農地・農業水利施設を活用した「流域治水」最前線」(仮)

近年、極端な大雨の発生頻度が増加しています。気象庁の「気候変動監視レポート 2023」によると、2014～2023 年の時間雨量 50 mm 以上の短時間強雨の平均年間発生回数は、1976～1985 年の約 1.5 倍に増加しました。その影響で、全国各地で豪雨による甚大な水害や土砂災害が多発し、人命や社会経済に深刻な被害をもたらしています。このような状況を踏まえ、防災・減災の取組みとして「流域治水」の重要性が高まっています。

流域治水とは、従来の河川管理者が主体となっていく治水対策に加え、流域全体の関係者が協働し、水害を軽減する取組みです。2021 (令和3) 年 11 月に流域治水関連法が全面施行され、流域治水プロジェクトが本格始動しました。この取組みは、国・流域自治体・企業等などの流域の関係者が協働し、全国の 700 を超える水系で展開されています。一級水系で策定されている

119 のプロジェクトのうち、107 プロジェクト (2024 年 3 月末時点) では、農地・農業水利施設の有する洪水調節機能を活用した流域治水 (農業用ダムの事前放流、田んぼダムの取組み、および排水施設・ため池の活用など) が進められるなど、農業・農村が果たす役割は大きいといえます。そして、これらの取組みをさらに加速化・深化させることが求められています。

水土の知では 2022 年刊行の第 90 巻第 6 号で流域治水に関する小特集を行いました。その後の本格始動を経て、技術的知見が蓄積される一方で、新たなに浮かび上がった課題もあると考えられます。そこで、本小特集では、流域治水の取組みに関する最新の知見を共有することを目的に、農業農村工学に関連する流域治水の事例報告や、これらの取組みを評価する報文を広く募ります。

第 94 巻第 4 号テーマ「農業農村工学分野におけるこれからの気候変動対策技術と貢献」(仮)

農林水産省地球温暖化対策計画では、2050 年にカーボンニュートラルを達成することが最終目標とされ、2025 年 4 月の改定では中期目標として 2035 年度および 2040 年度における温室効果ガス排出削減目標が新たに設定されました。本計画は、IPCC 第 6 次評価報告書などの科学的知見、みどりの食料システム法の施行、食料・農業・農村基本法の改正など、国の内外における情勢変化を踏まえ、既存技術の活用と並行してイノベーションの創出による対策の促進が強く求められています。

農業農村工学分野では、気候変動による農作物の品質・収量の低下への対応、水資源の変動への対応といった適応策に加え、水田におけるメタン排出削減対策、土壌炭素貯留を促進する営農管理、農業農村整備事業における温室効果ガス排出削減対策、施設園芸や農業機械の省エネルギー・非化石燃料化などの緩和

策、国際協力による技術展開など、多岐にわたる技術的・社会的な貢献が期待されます。さらに、膨大な農業水利施設や農地インフラの持続的な管理と高度利用、地域特性を踏まえた施設の改修や運用の最適化も、今後の重要課題といえるでしょう。

本小特集では、持続的な農業の実現に向けて、農地や農業水利施設を対象とした気候変動対策に関する研究成果や技術・施策を募集します。気候変動への適応策および緩和策として社会実装されている技術、技術革新に貢献する研究成果、これらを支援する施策や施策のあり方などに関する報文を想定しています。また、現場での社会実装における課題や政策との連携、普及展開に関する知見など、研究と実務の橋渡しとなる報告も歓迎します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ (<https://www.jsidre.or.jp/journal/>) に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,『『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き』

を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文 (テンプレート) の各ファイル (Word) を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中

で希望される方には、学会ホームページ上で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

- (1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。
- (2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記

E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

- (3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。
- (4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を取録したものです。

2026 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2026 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 94 巻（2026 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真は A4 以上 B4 以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含みます。なお、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm、B4 は 257×364 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき 20 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締 切 2025 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限ります。

6. 審 査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 94 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2026 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<https://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名義（固有名詞）、対象

物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2024年7月から2026年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」(略称 : PAWE) を発行しています。なお、Paddy and Water Environment 誌の略称は、これまで PWE としておりましたが、2022 年 11 月の国際集会以降は PAWE に統一されることとなりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2024 年のインパクトファクター (IF) は 2.1 であり、国際ジャーナル誌としての位置づけが確立しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理)
- ② 排水 (排水管理、排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良、土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発、水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節、地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生、陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画、土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境、土壌環境、気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑輪換、施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興、条件不利地の支援策など)

また、世界 12 カ国から Editor (22 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

2024 年 7 月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・ Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・ Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon KIM

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin LIN

National Taiwan University, Taiwan

・ Editors 12 カ国から 22 名

・ Editorial Advisors 27 名

・ Chief Managing Editor

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

・ Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science, Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Taiwan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Shutaro SHIRAKI

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Sciences (JIRCAS), Japan

編集事務局 (2026 年 6 月まで日本担当)

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan

TEL : +81-42-367-5757

E-mail : taskkato@go.tuat.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<https://link.springer.com/journal/10333>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PAWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <https://link.springer.com/journal/10333/submission-guidelines> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900 円 (税込)

学生会員（院生含む）4,950 円（税込）

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度

からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。
冊子体の配布はありません。

申込先：農業農村工学会事務局（suido@jsidre.or.jp）まで会
員番号を明記の上、お申し込みください。

令和 7 年度東北支部総会・第 65 回東北支部研究発表会ならびに

第 55 回東北支部研修会・第 45 回地方講習会の開催（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期 日 令和 7 年 11 月 6 日（木）、7 日（金）

支部研修会・地方講習会 10:00~15:30

2. プログラム概要（案）

会場：ANA クラウンプラザホテル秋田

(1) 11 月 6 日

① 支部総会・研究発表会 9:30~17:00

会場：ANA クラウンプラザホテル秋田

〒010-0001 秋田県秋田市中通 2-6-1

TEL: 018-832-1111

② 情報交換会 18:00~20:00

会場：ANA クラウンプラザホテル秋田

(2) 11 月 7 日

3. 問合せ先

秋田県農林水産部農地整備課（小嶋，阿部）

〒010-8570 秋田県秋田市山王 4-1-1

TEL: 018-860-1821

E-mail: nouchiseibika@pref.akita.lg.jp

4. その他

詳細が決まり次第、本誌および東北支部ホームページ
(<https://www.jsidre.or.jp/tohoku/>)で随時お知らせします。

第 76 回関東支部大会（講演会・講習会等）の開催（第 2 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 支部大会（講演会・講習会等）

(1) 日時 令和 7 年 11 月 10 日（月）10:30~17:00

会場 幕張メッセ 国際会議場

(〒261-8550 千葉県千葉市美浜区中瀬 2-1)

(2) プログラム（予定）

① 10:00~ 受付（1 階受付カウンター）

② 10:30~10:45 開会式（2 階国際会議室）

③ 10:50~11:20 支部賞授賞式（2 階国際会議室）

④ 11:30~12:30 講習会（2 階国際会議室）

議題および講師 調整中

⑤ 13:30~16:30 講演会

第 1 会場（中会議室 101）

第 2 会場（中会議室 103）

第 3 会場（中会議室 104）

第 4 会場（中会議室 105）

⑥ 16:45~17:00 閉会式（2 階国際会議室）

(3) 会場への案内

JR 京葉線「海浜幕張駅」から徒歩約 5 分

JR 総武線・京成線「幕張本郷駅」から「幕張メッセ中
央」行きバスで約 17 分

2. 情報交換会

(1) 日時 令和 7 年 11 月 10 日（月）18:00~20:00

(2) 会場 Y's（ワイズ）幕張テクノガーデン店

千葉県千葉市美浜区中瀬 1-3

幕張テクノガーデン CD 棟 3 階

3. 参加申込み

(1) 申込方法

千葉県農林水産部耕地課ホームページに掲載いたします。
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouchi/nougyou-seibi/jsidre-kanto.html>)

【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を
登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。
登録の際に提供いただく個人情報、厳重な管
理のもと本支部大会のみに使用させていただきます。ま
た、登録による追加費用等は一切ございません。

(2) 講演会、情報交換会

参加申込締切日：令和 7 年 10 月 10 日（金）

(3) 講演申込み

申込締切日：令和 7 年 10 月 10 日（金）

原稿締切日：令和 7 年 10 月 10 日（金）

(4) 参加費

・講習会・講演会 2,500 円（学生、講演者は無料）

・情報交換会 5,000 円

(5) 昼食

昼食は用意しませんので、各自をお願いします。

4. 講演会発表者原稿提出方法

(1) 提出方法

千葉県農林水産部耕地課ホームページに掲載いたします。
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/kouchi/nougyou-seibi/jsidre-kanto.html>)

(2) 原稿締切 令和 7 年 10 月 10 日（金）

- (3) 原稿枚数 2枚または4枚
(4) 講演時間 質疑応答を含め15分程度
(5) その他

幅広い分野からの応募を歓迎いたします。

講演概要(200字)は学会誌や学会ホームページなどで公表させていただきます。ご了承ください。

5. 問合せ先

千葉県農林水産部耕地課基盤整備室 長谷川, 衛藤
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL: 043-223-2847 FAX: 043-225-3789
E-mail: kou-sekkei@mz.pref.chiba.lg.jp

6. その他

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお願いします。

令和7年度九州沖縄支部大会(第106回シンポジウム・講習会・講演会・現地見学会)の開催(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 日 時

令和7年10月30日(木)

9:00~17:00 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

令和7年10月31日(金)

8:30~12:50 現地見学会

2. 会 場

- (1) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会
ホテル熊本テルサ

(<https://kumamoto-terra.com/>)

〒862-0956 熊本県熊本市中央区水前寺公園28-51

TEL: 096-387-7777 FAX: 096-387-7575

- (2) 情報交換会は開催いたしません。

3. プログラム(予定)

- (1) 10月30日(木) 開会式・支部賞授賞式・シンポジウム・講習会・講演会

① 8:00~ 受付 (1階テルサホール前ホワイエ)

② 9:00~ 9:30 開会式 (1階テルサホール)

③ 9:30~10:00 支部賞授賞式 (1階テルサホール)

④ 10:00~11:10 シンポジウム (1階テルサホール)

「地域共創による食資源循環の取り組み」

講師: 琉球大学農学部 平良東紀(微生物学)

「技術士資格の取得のすすめ」

講師: 九州沖縄農業土木技術士会 渡邊昭弘

⑤ 11:10~12:00 講習会 (1階テルサホール)

「新たな食料・農業・農村基本計画, 土地改良長期計画について」

講師: 農林水産省農村振興局整備部設計課

池谷拓二

⑥ 12:00~15:00 講演会【ポスターセッション】

(3階ロビー)

⑦ 13:00~17:00 講演会【オーラルセッション】

第1会場 (2階りんどう・つばき)

第2会場 (2階ひばり)

第3会場 (3階たい樹中)

第4会場 (3階たい樹南)

- (2) 10月31日(金) 現地見学会

① 8:00~ 8:20 受付

② 8:30~12:50 現地見学会

集合時間: 8:00

集合場所: 熊本県庁本館1階ロビー

予定コース: 出発地(熊本県庁)→大切畑ダム→熊本地震震災ミュージアム KIOKU→熊本空港→熊本駅

※昼食なし, 途中トイレ休憩あり。現場状況等により見学地が変わることがあります。また, 交通事情により終了時間が前後することがあります。

※復路について, 熊本空港および熊本駅にて下車が可能です。

4. 参加費

	講習会 (10/30)	講演会 (10/30)	お弁当 (10/30)	現地見学会 (10/31)
一般料金(会員)	2,000円	4,000円	1,100円※	3,000円
一般料金(非会員)	3,000円	5,000円	1,100円※	4,000円
学生料金	1,000円	2,000円	1,100円※	2,000円

内訳

参加費: 講習会, 講演会, 現地見学会(事前申込)

昼食: お弁当代(事前振込)(※お弁当をお申し込みされた方は当日, 受付にて引換券をお渡します)

5. 講演会(オーラル・ポスターセッション)の発表申込み・発表方法

令和7年度支部大会の運営および参加申込受付は, 大会運営事務局(熊本県)が担当し, 講演会の発表申込受付とプログラム編集は, 九州沖縄支部事務局(琉球大学)が担当します。

講演会の発表については, 下記によりお申し込みください。

なお, オーラルセッションとポスターセッションの投稿方法は下記のとおり統一されています。また, 学生会員(学部生・研究生・大学院修士)はオーラルセッションではなく, ポスターセッションにお申し込みください。

(1) 投稿方法

「講演要旨(PDF形式)」と「講演会投稿票(MS-Excel形式)」の各ファイルをE-mailに添付してご投稿ください。E-mailの件名には「2025NN九州沖縄_発表者氏名」と記載してください。

なお、講演要旨と講演会投稿票は、10.の支部ホームページからダウンロードしてご利用ください。

(2) 講演要旨・講演会投稿票の書き方

10.の支部ホームページから、「講演会投稿票・講演要旨の書き方及び電子投稿要領」をダウンロードし、ご参照ください。

また、過去15年以内に価値ある業績等を通算3回以上口頭で発表した会員に授与する研鑽賞は自己申告制です。受賞対象者になると思われる方は講演会投稿票に必要事項を記入して申告してください。

(3) 投稿先（九州沖縄支部事務局）

E-mail: s-naka@cs.u-ryukyu.ac.jp

（琉球大学農学部 中村真也）

(4) 投稿締切

令和7年9月19日（金）

(5) オーラルセッションの発表方法

1課題当たりの発表時間は質問・交代時間を含めて12～15分程度です。発表用機材としてパソコン（OS: Windows11, ソフト: MS-PowerPoint）とプロジェクターを大会運営事務局で用意します。OHP・スライド用機材は用意することができませんのでご了承ください。

なお、令和7年度は講演要旨集の印刷配布は行いません。10.の支部ホームページに掲載しますのでご確認ください。

(6) ポスターセッションの発表方法

原則として学生会員（学部生・研究生・大学院修士）を対象に募集します。ポスター賞を若干名に授与します。事前のポスター送付は不要です。

なお、ポスターセッションは15時終了となる予定です。12～13時にコアタイムを設けており、当該時間において発表者は必ずポスターの前に滞在し、ポスターセッションをお願いします。

① 用紙および枚数

1課題当たりA0（縦）版1枚以内

② ポスターの掲示

10月30日（木）11時までに、発表者の責任で掲示用パネルにポスターを掲示してください。掲示用パネルのサイズは（高さ）1.7m×（幅）1.10mとなる予定です。

6. 支部大会参加申込方法

(1) 参加申込み

本大会の参加申込受付については、(株)山一観光を通じて行います。(2)の大会参加申込みURLからアクセスし、リンク先からお申し込みください。なお、講演会での発表希望者も参加申込みが必要です。

(2) 申込み先

大会参加申込みURL: [https://docs.](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdNb-IzowY5HbmqsfpYZtivghIa7bS0a1PpWDxVK8aUSWyoBA/viewform?usp=sharing&ouid=105097395887167871024)

[google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdNb-IzowY5HbmqsfpYZtivghIa7bS0a1PpWDxVK8aUSWyoBA/viewform?usp=sharing&ouid=105097395887167871024](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdNb-IzowY5HbmqsfpYZtivghIa7bS0a1PpWDxVK8aUSWyoBA/viewform?usp=sharing&ouid=105097395887167871024)



【注意】

参加申込みに当たり申込み者情報および参加者情報を登録いただく必要がありますので、あらかじめご了承ください。登録の際に提供いただく個人情報、厳重な管理の下、本支部大会のみに使用させていただきます。また、登録による追加費用等は一切ございません。

(3) 申込期限

令和7年9月19日（金）

※定員になり次第、締め切りますので、早めにお申し込みください。

(4) 参加費の納入

本大会の講習会・講演会・現地見学会等の参加登録および参加費受領については、(株)山一観光を通じて行います。参加登録完了後、お支払いに関するご案内メールが届きます。そちらからお手続きをお願いいたします。なお、振込手数料はご自身でご負担ください。

領収書は申込み時に選択された方法（メール送信、郵送）により発行します。ただし、参加費として講習会、講演会、現地見学会の3項目合算の領収書となります。

参加費納入、請求書・領収書についての問い合わせ等は9.大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先までご連絡ください。

※振込後の参加費等の返還には応じられませんので、ご注意ください。

(5) 講習会・講演会について

テキストは、参加申込みいただいた方へのみの配布（ファイル配布）になります。

(6) 現地見学会について

保険適用の関係で、事前にお申し込みいただかない限り現地見学会には参加できません。申し込みがない方の当日参加はご対応できませんので、ご了承ください。

(7) 宿泊について

大会運営事務局では宿泊の斡旋・手配は行っておりません。

7. その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、開催方法および内容が変更となる場合があります。

また、5.講演会（オーラル・ポスターセッション）の発表申込み・発表方法（1）投稿方法の「講演要旨と講演会投稿票」および6.支部大会参加申込方法（2）申込み先「大会参加申込みURL」について、準備の遅れ等が想定されますので、10.支部ホームページにて最新情報を確認してください。

8. 大会運営事務局

農業農村工学会九州沖縄支部大会運営事務局
(熊本県農林水産部農村振興局技術管理課 担当: 吉井)
〒862-8570 熊本県熊本市中央区水前寺 6-18-1
TEL: 096-333-2419 FAX: 096-383-0367
E-mail: yoshii-k@pref.kumamoto.lg.jp

9. 大会参加申込み・参加費納入についての問合せ先

(株)山一観光 担当: 青木

〒862-0926 熊本県熊本市中央区保田窪 2-12-6
TEL: 096-340-1111 FAX: 096-340-1256
E-mail: yoyaku@yamaichi-kanko.co.jp

10. 支部ホームページ

農業農村工学会九州沖縄支部ホームページ:
<https://www.jsidre.or.jp/kyusyu/>

第 64 回土壌物理研究部会研究集会の開催

1. 主 催 農業農村工学会土壌物理研究部会

共 催 土壌物理学会, 三重大学生物資源学部

2. 日 時

2025 年 10 月 24 日 (金) 13:00~17:00

3. 会 場

三重大学上浜キャンパス 環境・情報科学館 3 階
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

4. 参加費 無料

5. 問合せ先

農業農村工学会土壌物理研究部会事務局

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究科 渡辺晋生・坂井 勝

TEL: 059-231-9251

E-mail: sakai-m@bio.mie-u.ac.jp

6. その他

メインテーマ, 参加申込方法は準備が整い次第お知らせします。

2025 年度計算力学技術者 (CAE 技術者) 上級アナリスト認定試験の案内

1. 主 催 (一社)日本機械学会

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 試験日程

上級アナリスト認定試験

[固体力学分野]

2025 年 11 月 23 日 (日) または 29 日 (土)

[熱流体力学分野]

2025 年 11 月 16 日 (土) または 30 日 (日)

[振動分野]

2025 年 11 月 16 日 (日) または 23 日 (日)

3. 申込受付期間

2025 年 8 月 26 日 (火) ~9 月 11 日 (木)

4. 問合せ先

(一社)日本機械学会 事業企画グループ

E-mail: caenintei@jsme.or.jp

5. その他

詳細は, 日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会のホームページ (<https://www.jsme.or.jp/cee/>) をご覧ください。

第 17 回「梶木賞」論文の募集

全国農村振興技術連盟では, 将来の農業農村整備を担う若手技術者の皆様から, 農村振興に対する自らの経験を踏まえた提言・抱負をまとめた, 第 17 回「梶木賞」論文を募集いたします。

1. 主 催 全国農村振興技術連盟

後 援 農業農村工学会

2. 応募テーマ

農業・農村の直面している課題とその対応策 (テーマを踏まえ論文の内容にふさわしいタイトルを決めてください)

3. 応募資格

全国農村振興技術連盟会員ならびに農業土木系の学科に在籍している学生

4. 原 稿

3,600 字程度 (上限 3,800 字)

写真・図の挿入は自由, 提出原稿は横書き

5. 応募締切 2025 年 10 月 31 日 (金)

6. 応募先・問合せ先

全国農村振興技術連盟 企画部

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館内

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kajiki@n-renmei.jp

7. その他

詳細は, 全国農村振興技術連盟のホームページ (<https://www.n-renmei.jp/>) をご覧ください。

第28回（2026年）日本水大賞の募集

1. 目的

日本水大賞は、21世紀の日本のみならず地球全体を視野に入れて、水循環系の健全化を目指し、美しい水が紡ぎ出す自然の豊かさの中にも水災害に対して強靱な国土と社会の実現に寄与することを目的としています。

2. 日本水大賞の内容

対象となる活動の中から、優れたものに対して以下の賞が授与され、広く公表されます。

大賞【グランプリ】

大臣賞

【国土交通大臣賞】【環境大臣賞】

【農林水産大臣賞】【文部科学大臣賞】【経済産業大臣賞】

ほか

3. 募集期間

2025年7月7日（月）～10月31日（金）（郵送の場合は当日消印有効）

4. 応募方法

応募様式に必要事項をご記入の上、事務局（taisyo@japanriver.or.jp）あてに電子メールでお送りください。

応募方法の詳細はホームページを参照してください。

5. 主催等

(1) 主催 日本水大賞委員会

名誉総裁 秋篠宮皇嗣殿下

委員長 毛利 衛（日本科学未来館名誉館長）

国土交通省

(2) 後援 農業農村工学会ほか

(3) 協賛 「川の日」実行委員会ほか

6. 送付先・問合せ先

日本水大賞委員会事務局

(公社)日本河川協会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-6-5 麹町 E.C.K ビル 3階

TEL : 03-3238-9771 FAX : 03-3288-2426

E-mail : taisyo@japanriver.or.jp

7. その他

詳細は、日本水大賞のホームページ（<https://www.japanriver.or.jp/taisyo/>）をご覧ください。

改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は「改訂六版農業土木ハンドブック」の精神を継承した上で、現代の農業農村工学を体系づけ、新分野の拡充と既存分野を整理・統合したものです。

本編（6部構成）、基礎編（6部構成）の2分冊とし、基礎編は、JABEE認定プログラムに配慮して構成しました。



体 裁 : B5判 本文約1,250ページ
(本編約800ページ 基礎編約450ページ)

定 価 : 20,952円 (税込+送料200円)

会員特価 : 16,764円 (税込+送料200円)

発行 : 公益社団法人 農業農村工学会

TEL : 03-3436-3418

E-mail : suido@jsdre.or.jp

学会ホームページ : <https://www.jsdre.or.jp/>